

## 上田市と近郊の気象と一揆の歴史

寺澤正直（長野電波技術研究所）、寺澤幸文（長野電波技術研究所）

寺澤 泰（長野電波技術研究所）、南沢美子（長野電波技術研究所）

(1) はじめに 未来の農業を考えるために過去の農業や気象データが必要となることがある。もちろん、200年300年前の科学的な気象データは存在しないが、異常気象、災害、一揆などの古文書が存在し、これらの文献中には気象データの痕跡が多く含まれている。本研究は上田市近郊の一揆に関する古文書をもとに現在の気象や地形のデータと比較することによって、一揆との因果関係について推定した。

(2) 研究の方法及び材料 長野県上田市近郊に一揆が多発した青木村があり、上田市、青木村(上田藩)及び青木村と標高や地形などの自然環境に近い真田町の一揆について文献調査し比較した。

(3) 結 果 真田町には江戸時代から明治にかけて歴史に残る一揆はなかったが、上田市周辺では一揆が8回起こり、内2件が上田市郊外、内5件が現在の青木村で発生した。上田市・真田町・青木村で起こった一揆についてはTable 1にまとめた。また、青木村の一揆が起こった地区の位置関係をPicture 1に示し、周辺地域の目安として青木村奈良本地区の土地断面図をPicture 2、田沢区、及び夫神区の土地断面図をPicture 3、Picture 4に示した。

(4) 考 察 真田町は標高600mであり、東に1000mを超える山々を配しているが南、西は比較的開けているため、日射時間が長い。また、上田市内は標高400mの盆地で気象条件が温和である。青木村は標高600~700mに村が点在し、東に開けている以外は周囲を1000~1500mの山々に囲まれ、特に一揆の発祥地になった村々では日没が早く、山からの水も水温が比較的低いと考えられる。このため、他の地域と比較して米の生産には向いていなかったと想像でき、気象や地形が一揆に大きな影響を与えたことが考えられる。今後は現在の日射時間、気象及び水温の実測を行う必要がある。

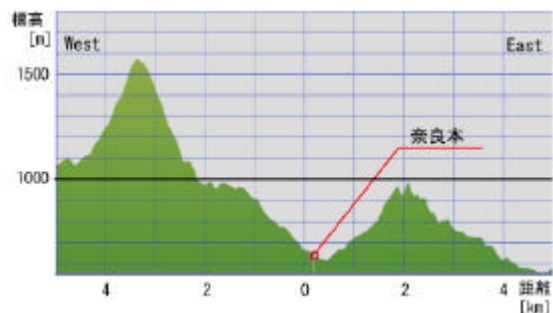
Table 1 :上田市,真田町,青木村に於ける一揆

西 暦	年 号	発生地 (現在の町村名)
1653	承応2	武石村(同)
1675	延宝3	塩田組平井寺村 (上田市平井寺区)
1682	天和2	浦野組入奈良本村 (青木村奈良本村)
1721	享保6	浦野組中挟村 (青木村田沢区中挟)
1761	宝暦11	浦野組夫神村 (青木村夫神区)
1784	天明4	小泉組下室賀村 (上田市下室賀区)
1809	文化5	浦野組入奈良本村 (青木村奈良本村)
1869	明治2	浦野組入奈良本村 (青木村奈良本村)

Picture 1 :青木村の地形図



Picture 2 :奈良本区の土地断面図



Picture 3 :田沢区の土地断面図



Picture 4 :夫神区の土地断面図

